

小倉擬百人一首



源平西家の縁の手は山出の霞と朝霧の輪
際三高砂や播磨小つらに須磨の陣可小縁
そらの三姉夫敷盛の熊谷直實が五郎の又
小命を落玉織八平山季重が非道の劔か刺
彼所の林利が今もあつる老樹の機と名を残せり
柳下亭種員筆記



一甲帝
國子才色

無官大夫敷盛

玉織姫





xrite ColorChecker® Color Rendition Chart